富山県総合計画審議会　第１回活力部会

日　時：平成29年１月24日（火）10：00～12：00
場　所：県民会館８階バンケットホール

＜出席委員＞（五十音順）

髙木部会長、川村副部会長、石澤委員、伊藤委員、庵委員、梅田委員、尾山委員、高田委員、中井委員、宮本委員、横井委員

朝日専門委員、鵜殿専門委員、大谷専門委員、河上専門委員、杉野専門委員、能作専門委員、町野専門委員、松田専門委員、政所専門委員、宮越専門委員、山本専門委員、渡邉専門委員

１　開　　会

【司会】　それでは、改めまして、第１回活力部会を始めさせていただきます。

２　知事挨拶

【司会】　初めに、石井知事から、ご挨拶を申し上げます。

【石井知事】　皆さん、今日は早朝からありがとうございます。

今日は、富山県総合計画審議会の第１回目の活力部会ということですけれども、委員の皆様には大変お忙しい中、また今日は大変足元の悪い中ご出席賜りまして、まことにありがとうございます。

本県では、平成24年４月に総合計画、「新・元気とやま創造計画」を策定いたしまして、これを県政運営の指針といたしまして、活力・未来・安心の３つの分野、また重要政策「人づくり」の分野で着実に進めてまいりました。

ただ、計画から５年近く経過いたしましたし、また北陸新幹線の開業で予想していたこととはいえ、県内は想定以上の活性化をしている。課題はもちろんありますけれども、明らかに新幹線開業で富山県も北陸も新しい時代に入ったかなと思っております。

そこで、一方では、地方の人口減少とかいろいろ課題も多いわけで、国に数年来お願い

して、地方創生ということも国の重要政策の１つにしていただいておりますが、この新幹線開業効果と国の地方創生戦略をうまく最大限に生かして、富山県の新しい未来を築いてまいりたいと思っております。

そこで、この総合計画についても、10年計画ですが、最初につくった際も、５年ほどたったら見直しをするということにしてまいりましたので、ぜひ、今その時期に来たということで、昨年の12月８日に第１回目の総合計画審議会を開催して、そこで４つの部会を設け、その１つがこの活力部会ということでございます。

大変大事な時期に富山県は来ていると思います。この総合計画見直しに先立って、地方創生については、「とやま未来創生戦略」を一昨年の９月につくり、昨年３月に改訂版を出しております。ただ、これは政府の予算との絡みもありますので、５年計画ということになっております。

また、昨年の９月に「富山県経済・文化長期ビジョン」も策定させていただきましたが、これは、概ね30年先を念頭に置いた長期のビジョンとなっております。

また、昨年10月、私は知事選挙に出さしていただいた際に、全部で100の政策を県民の皆さんにいわば公約ということでお約束をして当選させていただいたという経過もございます。

こうした富山の未来創生戦略、また経済・文化長期ビジョン、また昨年の100の政策、こういったものも踏まえながら、今度の新しい総合計画がいかにあるべきかということをご議論賜れば、ありがたいと思っている次第でございます。

ひとつよろしくお願いいたします。

【司会】　それでは、この総合計画審議会の活力部会でありますが、昨年12月８日に開催をいたしました第１回の総合計画審議会におきまして、富山県総合計画審議会運営規程に基づきまして、会長の指名により、部会長を髙木委員、副部会長を川村委員にお願いすることで決定をいたしております。どうかよろしくお願いをいたします。

次に、資料１の部会別委員名簿をご覧ください。活力部会につきましては、この名簿のとおり、委員が11名、専門委員14名の皆様に委嘱申し上げているところでありますが、本日はこのうち委員11名、専門委員12名の皆様にご出席をいただいております。本来お一人ずつご紹介すべきところでありますけれども、時間の関係もありますので、お手元の名簿をもちまして、ご紹介にかえさせていただきます。

また、専門委員の皆様には、本日お手元に知事名の委嘱状をお配りさせていただいてお

りますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思いますけれども、運営規程第４条により、部会長に部会の議長をお願いすることとなっておりますので、髙木部会長に議長、進行をお願いしたいと存じます。

それでは、部会長から一言ご挨拶をいただき、引き続き議事に入っていただきたいと存じます。どうかよろしくお願いいたします。

【髙木部会長】　総合計画審議会の活力部会の部会長を務めさせていただくこととなりました。皆様方のご協力を賜りまして進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

この活力部会は、産業、労働、観光、農林水産業、交通基盤、都市、情報通信など、大変幅広いテーマについて審議するということを承っております。大変重要な役回りと思っておりますので、皆様方の一層のご協力をお願いするものでございます。

何とか皆様方のお知恵を結集しまして、よい計画案を取りまとめていきたいと考えております。重ねて格段のご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

３　議　　事

（１）総合計画の見直しについて

【髙木部会長】　それでは、早速議事に入ってまいりたいと思います。

お手元の会議次第に従いまして、まず、議事第１、現行総合計画の見直しについて、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】　それでは、２ページ目をご覧いただきたいと思います。資料２、総合計画の見直しでございますけれども、この資料は、昨年12月８日の総合計画審議会で審議いただいた資料でございますけれども、本日からご参加の専門委員の皆様方には、ご覧の策定指針についてご確認、お目通しをいただきたいと思います。

新たな計画につきましては、下のほうに書いてございますが、平成38年度を目標年次としまして､概ね10年間程度を見通した計画として策定していこうというものでございます。

続きまして、スケジュールでございますけれども、次の３ページでありますが、今年の秋ごろまで、今回を含めまして都合３回の部会を開催させていただきまして、年内には審

議会より答申をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

全体のスケジュールについては４ページにまとめておりますので、ご確認をお願いいたします。

続きまして、資料３、Ａ３の横長の資料でございますけれども、５ページ目でございます。新たな政策体系案でございますけれども、先般の審議会におきまして、全体で100の新たな政策体系を提示させていただきました。そのうち活力部会につきましては、下の表でございますけれども、左側が現行計画、21の政策でございますが、これを今回右側の30政策としておりまして、特に赤の矢印で示しておりますけれども、今回拡充した政策を中心に右側にそのポイントを点線の枠の中に記載させていただいております。

上の４つの囲みでございますけど、これはそれらを束ねます基本政策の４つの目標ということで記載をさせていただいております。

今後は、この新しい政策体系に基づきまして、議論を進めさせていただきたいと思っております。

続きまして、６ページから８ページにかけましては、30の今ほどの政策ごとに主な取り組み方向ということで記載をさせていただいております。

それから、続きまして、９ページ、資料４でございます。

今年の春までに計画の骨子案を取りまとめるに当たりまして、10ページから30の政策ごとに今回、現状と課題、それから政策課題に対する論点、こういったものをまとめさせていただいております。

つきましては、こちらの資料を参考にしていただきまして、今回の部会では９ページにございます、本日ご議論いただきたい論点ということで、１つは、各政策の現状、課題の捉え方がこれでよいかですとか、また各政策に掲げました論点、こういったものに対する県の取り組みなどについて、ご意見、ご提言をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、資料５をご覧いただきたいと思います。ページ番号で言いますと40ページになります。40ページのＡ４の資料をご覧いただければありがたいです。

こちらの資料につきましては、活力部会アンケート調査結果（速報）でございますけれども、活力部会の委員、専門委員の皆様、25名全員から回答いただいたものを集計したものでございます。委員の皆様には、お忙しいところ、本当にありがとうございます。

それでは、簡潔にポイントだけ申し上げていきたいと思います。

まず、40ページの１番目で「10年後の県民生活はどのようになるとお考えか」ということでございますけれども、上位から申しますと、新幹線等による県内経済の活性化、そして情報化のさらなる進展、こうしたものが上位になっております。

続きまして、41ページをご覧いただきたいと思います。

２番としまして、「富山の魅力形成のために特にどのようなことが重要か」ということでございますけれども、ご意見の中では、「様々な働く場所があり、所得水準が高いこと」というのが１位になっております。そのほか、活力部会の関係で申しますと、この３つ目に書いてございます「新鮮、良質、安全な食材が地元から供給される豊かな食生活ができること」、これが上位に入ってきております。

続きまして、42ページをご覧いただきたいと思います。

３番としまして、「県土づくり（社会資本整備）施策としてどのような成果を重視して整備を進めるべきか」ということでございまして、上位につきましては、記載のとおりでございますけれども、１番目は国内外の交流の活発化、２番目が人口減少への対応・地域の自立、活性化、３番目が国際的な競争力の確保、こうしたものが上位に入ってきております。

続きまして、43ページをご覧いただきたいと思います。

４番として、「今後10年間を通して特に重点的に推進していくことが求められる施策は何か」ということでございまして、本日の活力部会に関係がございます（１）の活力、43ページをご紹介したいと思います。

活力の分野で申し上げますと、１番目の雇用の確保と人材の育成、これが突出して高くなっております。それに次ぎまして、産学官連携によるものづくり産業の高度化、中小企業の振興、富山のブランド力アップ、こうしたものが上位になっております。

以下、44ページは未来、その次のページが安心、その次のページが人づくりとなっておりますので、またご覧いただければと思っております。

47ページ以降は、その他自由にご記載いただいたものを掲載させていただいておりますので、ご覧いただければありがたいと思っております。

以上でございます。

【髙木部会長】　ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきまして、何かご質問等ございますでしょうか。

（２）意見交換

【髙木部会長】　特段なければ、議事（２）意見交換に入らせていただきたいと思います。

進め方といたしまして、次第のところに記載されております４つの点のもとに、皆様のご意見を賜りたいと思っております。

まず、「１．グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成と雇用の確保」について意見を伺いたいと思います。

先ほど事務局から説明のありました資料４、本日ご議論いただきたい論点を踏まえて、皆さんのご意見を賜りたいと思います。

それでは、特段何かございますか。富山県人は自分から手を挙げるというのはあんまりないので、私のほうから当てさせていただきます。

まず、銀行協会会長、北陸銀行頭取の庵委員、お願いいたします。

【庵委員】　今回、施策を２つ追加してあるとお聞きしているのですけれども、医薬・バイオは富山の基幹産業として大きくこの５年間成長したということで、これをはっきりさせたといった点は、やはり集中する部分の１つとして大切なことだと認識しております。

あと、継続案件につきましては、やはり持続が大切ということで、それぞれ富山の特徴を捉えたデザイン力といったものも、それぞれ各企業のフォームが見えてきて、一つのブランド力を持ちつつあるという中で、引き続き、県としてもそうした面でのフォローアップをお願いしたいと思いました。

「雇用の確保と人材の育成」については、これはもう富山県だけではなくて日本全体の課題ということで、外せないテーマですけれども、具体的な手段というか、そこの部分についてはちょっと私もアイデアはないというのが正直なところです。

簡単ですけど、以上です。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、機電工業会会長のＹＫＫの副社長の大谷委員、お願いいたします。

【大谷委員】　このまとめられた目標は、概ねこの方向で良いと思います。ただ、ものづくりという観点で言いますと、４年前に「富山県ものづくり産業未来戦略会議」で私も委員をさせていただいたのですけれども、当時と今では、特にロボット、ＡＩを活用した省人化とか、あるいはもう１つ、ＩｏＴという考え方が急速に昨年ぐらいから出てきており、技術が日々進化しています。そこに対して対応していくためには、特に富山県の場合は中

堅中小企業が７割を占めていることからも、そこの７割の中で効果を発揮できるものにしていかないと全体の効果につながらないということで、まず昨年度から富山県が主催して、「富山県ＩｏＴ活用ビジネス革新研究会」をスタートしていただきました。

更には、「企業間連携実現協議会」として、県外に出ている仕事を県内でできるためにはどうしたらいいかということの検討もスタートしております。

これらは単年度で終わるのではなく、継続して検討し、取り組みを進めていくことで、ステップ・バイ・ステップで基盤をつくっていくことが、この将来、10年後に対しての富山県のものづくりの基盤形成につながるのではなかろうかと考えています。例えばＩｏＴでも、今、中堅・中小企業の中でこの仕組みを浸透させようとしても、そういう意識がまだまだ、根付いていないのが実情ですから、それをどうやって導入して効果が出るかということを具体的に示しながら、ステップ・バイ・ステップで着実に取り組みを継続していくことでその効果を高めていくことが重要と考えています。県にも、ぜひこの政策課題に対して継続して支援をお願いしたいと思います。

以上です。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、商工会議所副会頭の河上委員、お願いいたします。

【河上委員】　この基本体系というのを見させていただきまして、各項目にわたりまして、いろいろと政策が書かれておりました。

私の立場から言いますと、特に商工会議所ということでございますので、まちづくりとかそれからいろいろと商業の問題というのが非常に気になりまして、いろいろ見させていただいております。

この新たな政策体系の中では、商業・サービスの振興、商店の活性化、創業チャレンジとか、観光の面でもいろいろと報告が挙がっております。

しかし、ちょっとこれを見ていますと、横の新たな政策ということからいきますと、何か商業関係の新たな政策というのがちょっと弱いのではないかと思っているところであります。

特に、新幹線開通後、いろんな意味で富山県も活性化してきているわけでありますけど、まちのにぎわいという点から言えば、言っちゃなんですけど、金沢にはちょっと勝てないなという認識を持っております。

そういうことから言えば、富山における商業の新幹線効果といいますか、光がいま一つ、

飲食関係はともかくといたしましても、その他、まちの再開発計画、そういうものを見ておりましても、まだまだ光が当たっていないなあというような感じでございます。

特に、今、富山のほうでも再開発計画がありますけど、特に商業の部分の出店といいますか、店を探すのが大変、富山県内もちろん県外も含めて進出してくれる企業というのは大変数が少ないということで、商業の活性化というのは、私はまちづくり、にぎわいという点からも、大きな問題ではないかと思っております。

そういう意味では、いろいろとその対策というのはあるかと思いますけど、私は特にこういう課題は市町村の問題かなと思います。特に基本的には、私は、観光人口もさることながら、定住人口といいますか、そういうものの拡大、そして富山を愛する住民の気持ちというのが一番肝心だと思いますので、特に定住人口の増大ということが、いろんな幅広い意味でＵターンを誘うとか、また工業、企業の誘致だとか、またいろいろと学生、学校、いろんなところを誘致するような取組みをもう少し積極的に取り組んでいただきたいなという気持ちでございます。

商業の問題１つとっても、大変難しいわけでございますけれど、その辺をひとつよろしくお願いしたいと思います。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、スギノマシンの杉野委員、お願いします。

【杉野委員】　ここ１週間ぐらいの間に世界が大きく変わりました。特に米州・アメリカを中心としたところのラテン系、それから欧州、それからアジアと、この３つの他にもアフリカもありますけど、それは別として、非常にいろんな問題が急に変わってまいりました。もう少し様子を見ないとわからないと思いますが、これは富山県にも影響してまいります。必ずまいります。そのときにはどのようにするかという、人の移動、それから富の移動ですね、それから通信の変化、こういうものがどんどん表れてくると思います。そういう中で、富山県がどのような方向に生きていくかということなのですが、この資料、つくられたのは、多分１週間、10日ほど前じゃないでしょうか、この冊子ですね。

こう見ていますと、一番変わらないのは人口減の問題でございます。特に労働人口のうちでも有益な若年から中高年までの間ですね、この辺の人口構成が変わってまいりまして、これをどうするかという問題が１つ。

それから、あと富山県としまして、観光があるのですけれども、もう少し基本的にダイナミックな観光を５年あるいは10年計画で、取り組んでいかなければいけないと思います。

富山県は、非常に地形的にもあるいは位置的にもいいところでございまして、これをもう少し深く突っ込んで、断片的にはできないと思いますが、少なくとも10年あるいはそれ以上の計画で進むべきではないかと、そのほうが投資金額の回収とか、いろいろな面で有益じゃないかと、このように思っております。

あまり性急にやらずに、じっくり将来を見据えてやれば大変いいところになると思うので、地震も少ない、天気もようございます、最近降雪も減りました。大体日本の中心、かつて福井が日本の中心、てんびんで日本の本州をつりますと、福井がセンターだったのですが、少し変わってまいりまして、今、富山、石川あたりがその中心になるのではないかと思っております。

そんな意味におきましても、まだまだやることはたくさんありますので、少し中長期的に見て、無駄のないような発展を期待するところでございます。

これ、今、パラパラと見たのですが、まことにこのとおりでございますが、しかし、もうちょっとここで見直してみたらどうかという点が２つ、３つございます。また、後刻機会がありましたら、申し上げたいと思います。

私のほうからは以上でございます。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、新世紀産業機構副理事長の町野委員、お願いいたします。

【町野委員】　ものづくりのプロの立場で話しますけど、ここ数年、県内の中小企業の指導をしてきて思うのですけど、皆さん口をそろえて言われるのが、「うちは品質と納期はいいけど、コストはまずい。」と、皆さん共通してそのようにおっしゃるのです。私の目から見ると、品質は全然だめなのですよ。コストは本人たちも直接その値段競争しているから弱いというのはわかっているのですが、品質が悪いことになかなか気がつかないのですね。やっぱりものづくり産業をキープするときは、品質をきちんと確保できる、品質を上げるという活動をきちんとやらないといけないわけで、県内の中小企業のある社長も私に「いや、町野さん、いいものをつくったら、仕事はいくらでもありますよ。」と言われましたね。

そういうことで、品質が一番大事なのだけど、ところが、この今日の資料にも品質という言葉は１つもないけど、こういうものを出すと、国も金出さないし、県も金出さないし、こういうはやり言葉ではないのですね。今のはやり言葉というのは、インダストリー4.0から出てきたＩｏＴなのです。結局、ここにもインダストリー4.0とＩｏＴと書いてありますけども、実際、これは生産技術の向上なのですよ。だから、その生産技術の向上なのだ

と、きちっとベースを踏まえて、ＩｏＴという話をしないと、何かＩｏＴだけが先行して飛んで歩いてですね、何かこのままだと変な感じに。だから、各産業界の人たちは、ＩｏＴ、ＩｏＴと言っても、どうＩｏＴにかかわっていけばいいかわからなくなっている。だから、そういう意味で、その生産技術の向上なのですね。

県の工業技術センターにも生産技術のプロっていないのですよね。ですから、このＩｏＴというのが出てきた、今ＩｏＴを入れれば、大体国からの予算も出てくる、県の予算も出てくる。そういう意味で、いわゆる中小企業の生産技術を上げる、イコール品質を上げる、そういう方向性を持って、工業技術センターにそういう生産管理の専門家を入れるとか、そういうチームをつくるとか、それが県内の中小企業の向上に一番役立つのではないかなと思っております。

ぜひまたご検討いただければと思います。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、労働者福祉事業協会の専務理事の宮越委員、お願いいたします。

【宮越委員】　交通基盤の強化の関係にも若干触れてあるのですけども、ここには具体的に「あいの風とやま鉄道の利便性向上」ということになっております。この富山県においては、鉄道王国と言われております。ＪＲ、三セク、そして民間事業者を含めて、多くの鉄軌道線が運行されております。

そういう意味で言うと、やっぱり乗り継ぎの利便性ということから言えば、共通のＩＣカード、要するに２枚も３枚も持たなくてもいいということで、１枚のＩＣカードで乗り継ぎができるというようなことで言えば、共通のＩＣカード導入というのは不可欠ではないかなと思っております。

そういう意味で言うと、富山県がリーダーシップを取りながら運営されている沿線自治体、そして当該事業者の橋渡しを早期実現されるよう要望したいと思っております。

以上です。

【髙木部会長】　ありがとうございます。まだまだ意見もあると思いますが、ちょっと区切りまして、第２のテーマに行きたいと思います。

「生産性・付加価値の高い農林水産業の振興」についてでございます。

それでは、まず、県の女性農業委員の会長、朝日委員、お願いいたします。

【朝日委員】　よろしくお願いいたします。

農家の立場から言いますと、この先10年後のことを考えますと、とにかく後継者育成、

これが一番大事と考えます。昔の水稲一本の富山県の農業の時は兼業農家が結集して水稲作物を作ってきました。その兼業農家が今は集落営農となりまして、個人個人の皆さんが集まって集落営農として規模拡大をして、今は、集落営農は大分進んできましたので、農地集積も進んでまいりました。集落営農の高齢化、これが一番の課題で、下から若い人が上がってくればいいのですけれども、勤めが第一で、また定年延長ということで、なかなか農業のほうに、田んぼのほうに、土日ぐらいしか出られないとかいうことになってきていますので、とにかく若い人の農業離れを防ぐためにも、何とか後継者育成に力を注いでほしいというのが今現場の一番の思いであります。

どうすればいいかと言われますと、よくある、農業をやってみたいという青年には、とにかく２、３年の研修が一番大事だと思います。農業は流れがありますので、２、３年の研修に補助金を出して研修してもらうとか、それから大手のサカタニ農産などへ行って研修したりとかもいいと思いますけれども、そのようなところへ行って研修し、自立を促していくような方向に援助をお願いしたいと思います。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、農協中央会の伊藤委員、お願いいたします。

【伊藤委員】　富山県農業といったら、水田が96％、これは全国一であります。そういう１つの、農地を装置とするならば、それをいかに高生産に結びつけるか、こういうことになるわけでございまして、生産性向上を目指していろいろ取り組んでおりますが、片方でどんどんグローバル化が進んでおりますので、なかなか思ったようになっていないというのが現状であります。

そういう中で、じゃ、将来的に何を誰がどの程度つくるのだという、何か大きなスキームが１つ必要なのかなと。現在は、米、麦、大豆を中心に走っております。そして平成22年から石井知事さんになられまして、野菜の１億円産地づくりに取りかかっております。ただ、いろいろ各農協で重点品目を定めてやっているわけでございますが、ようやく五、六年たって当初の倍ぐらいになったという状況にあるわけでございますが、さらにこれを質的にどう高めていくかと。先ほどもございましたように、やはり品質のよくないものをどれだけつくってもどうしようもないわけでございますので、これはどの産業も同じだと思いますが、やっぱり質の勝負というのは、これから１つの方向づけになるのではないかなという期待感を持っております。

そういう中で、よく以前から、じゃ、富山で何かやるといったときに、間違いなく、温

暖化が進んでおります。ひところは北海道では絶対コシヒカリという品種は米がとれないと言われていたのに今はとれるのですよ。それほどやっぱり進んでいるということ。また、県内でも一部ではミカンをつくったりしています。ミカンは温暖な地域だと思っていたのですが、それほど進んできているということでございますので、この温暖化を意識した中で、どういうものをピックアップするかということも考える時期に来ているのかなと思います。

また、もう１つは、やはり先ほどから出ていますように、後継者の問題がございます。現状は、集落営農のこのあたりの組織化、そして認定農家もいろいろおやりになっているのですが、認定農家といいますと、平均年齢は、どうでしょう、60歳前後じゃないかなと思います。また、集落営農も、これは寄り合い世帯みたいな格好で共同作業になりますので、どっちかといいますと定年帰農されたような方々を中心にやっているわけでございまして、この総合計画、10年後でございますので、10年後になるとおのずからプラス10歳になるわけでございますので、それを考えると大変見通せない要素があるわけでございます。

そういう中で、私ども農協組織としまして、現在16農協あるわけでございますが、９農協で農業経営受託会社を立ち上げております。ただ、経営は大変厳しいです。その１つは、やっぱり委託に出される皆さん方は、何といいますか、やはり隣近所、顔見知りの方が中心に出されるわけでございますが、経営を考えますと、やっぱり条件のいいところが先に動き、条件の悪いものが農協に来るというのが現在の状況でございます。そうなりますと、生産性を向上させるために大きな機械も導入するわけでございますが、なかなかフル稼働できないという悩みも持っております。

そういう意味で、長いスパンで考えたときには、やっぱり農協も、そういう会社を持ちながら、地域と認定農家の皆さん方、集落営農組織、そして農協もその中に入って、地域全体を考えるような仕組みを構築しなければいかんのかなといったことを最近特に思っているところでございます。

それと、よく言われますのが、あと輸出の問題も出てくるわけでございますが、輸出という言葉は大変響きがいいのですが、じゃ、何を輸出するのだという部分の深掘りですよね。例えば、富山といいますと、お米が中心でございますので、すぐ米ということになるのですが、海外のマーケット等々へ行ってみますと、やはり全国からいろんなお米が入っているわけでございます。ですから、国内の産地間競争が海外でも産地間競争のような現状になっているわけでございまして、そういうときに、先ほども申しましたが、質的な差

別化ですかね、このあたりもやはり念頭に置かなきゃいけないということを改めて思っているところでございます。

以上でございます。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、政策投資銀行の鵜殿委員、お願いします。

【鵜殿委員】　生産性・付加価値の高い農林水産業振興でございますね。

仕事柄農林水産業に知見があまりないところではあるのですけれども、１点だけ述べさせていただければと思います。

生産性の向上というのは、農林水産業に限らず全ての産業ですごく大事かなと思っております。上げていくためには、大谷委員がおっしゃったように、企業間連携実現協議会でもお話出ていましたけれども、域内の交流を図っていくということと、域外の交流を図っていく、中の交流、あと外との交流を活発にしていくということが大事かなと思っております。

そういった意味では、伊藤委員がおっしゃっておられました輸出というのも１つポイントだと思うのですけれども、どうしてもＥＵというものを考えたときには、ＨＡＣＣＰ対応というものもポイントになってくるのかなと思います。富山県内ではＨＡＣＣＰ対応の倉庫とか食品加工といった施設があるとは、私、寡聞にして聞いておりませんので、そういったものの整備というものも考えていく必要があるのかなと思います。

すみません、以上でございます。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、県漁業協同組合の尾山委員、お願いいたします。

【尾山委員】　漁業団体の尾山でございます。よろしくお願いします。

資料４の24ページに載っておりますけれども、27年漁期にはほとんどブリがなかったのですね。ですけど、28年の、昨年の12月から、それこそ１年ぶりというと何か長い時期があったような気もしますので、長い間、待ったかなというような感じでしたけれども、久しぶりにしっかりとブリが来てくれたものですから、氷見なんか３万本ぐらいとれたって言っていますけれども、私は新湊なのですけど、うちなんか、そうですね、3,000本もとれません。10分の１もとれなかったですね。ですけれども、おかげさまで、富山湾は、私、それが本当かうそかわかりませんけれども、日本中にいる魚種は800種類だと、それで富山湾に入ってくる魚が500種類いると、それで新湊で取れる魚が350～360種類いるのだという

ことを聞いたものですから、おかげさまで、そういう大きなものが入ってこなくても、年間を通すといろんな魚がたくさん入ってくるような気がするものですから、何とか皆さん経営しているのではないかなと思っているのです。

それで、一昨日、22日に、たまたま日本橋のとやま館でちょっと行事があったものですから、そこに参加させていただきました。そのときに、そこでお料理をつくっていらっしゃる「はま作」さんのシェフが私に、「尾山さん、今年、ここでブリ100本ぐらい売れました」。100本売れたって、皆さんに提供したって、「とってもブリがたくさんあれば、ここでも100本ぐらいは使えるんだ」ということを言われて、とってもうれしかったです。そして、ブリのお刺身を、地元でそんなに食べられなかったですけども、22日におなかいっぱいお刺身を食べさせていただいて、そのアラで煮たブリ大根もとってもおいしく煮てあって、よかったかなと思って帰ってきました。

だから、今、ここに来る魚が揚がれば、とっても活気もあるし、漁業者も元気も出るし、だけどやっぱり自然相手の仕事だと、「今日は荒れて行けない。ああ、今日は静かなのにどうしてかなあ。」と思うと、荒れてなくても波があるのですね。昨日、一昨日かな、一昨昨日は土曜日だったですか、うちなんか１隻も定置網が海に出なかったのですけども、たまたま魚津の人が出たために、外はそんな風吹いてないのですけど、波が高いのですね。そのために船がローリングっていうのですか、それがあったために、52歳の方が落ちて亡くなられたということを聞いて本当にびっくりしました。やっぱり出ないほうがいいかなと思ったときは、やっぱり出ないほうがいいのですけれども、荒れた後だから何かいるだろうと思ってやっぱり行かれたのだと思うのですね。そういう危険な仕事ですので、どういうのかなあ、そういうことも必ず毎日定期的に沖へ行けるというわけでもないのですね。

そういうこともありますので、とっても自然相手の職業は不安定だなと思って、いつもそれこそ生きた心地しない、海から帰ってくるまで、本当に心配しながら生活している状況なのです。

それで、ここに左側の上のほうにありますクロマグロのことですけれども、何か今年から規制がかかって、これ何トンとったら、これ以上とったらだめですよという国からのお達しがあったのですね。それで、うちの新湊漁協では、「もう皆さん大体これぐらい言われた頭数だけとったような状況だから、皆さん定置網の人、交代で休みましょう。」ということで、自発的に自分たちで定置網の組合の人だけで集まって、「じゃ、ここは何月何日休みます。」「じゃあうちは何月何日休みます。」ということで、皆さん休業しながら、そういう

調整を図りながら漁をやっている状態です。

また、いろいろ県からご指導いただきながら頑張ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、ＪＥＴＲＯの山本委員、お願いします。

【山本委員】　「生産性・付加価値の高い農林水産業の振興」ということなのですけれども、先ほどの「グローバル競争を勝ち抜く力強い産業」、共通して言えることは、やはり後継者、人材が非常に大切だということで、やはりこれらについて、魅力ある職場、富山に来て働きたい、あと、こちらの企業で働きたい、やはりそういう魅力を発信する必要があるかなと考えております。

その中で、１つやはり出てきている、高付加価値化というところで、今ちょうどお話で氷見のブリの話があったのですけれども、私自身も今回仕事で氷見に行く機会がございまして、セリの風景を外国のシェフにご紹介したりするのですけれども、やはり全く畑の違うところではあるのですけれども、非常に前線で働いている皆さんを見ていると、かっこいいと。人によってかっこいいと感じるのが、そのセリの現場なのか、ものづくりの現場なのか、いろんなところはあるかと思うのですけれども、今後、人を集める上で非常に魅力があるのだと、富山に来たら非常にかっこいい仕事ができるのだという、やっぱりそういった情報の発信の仕方というのが必要なのかなと思っております。

また、先ほどから出ております農林水産の輸出の問題につきまして、私どもも非常に輸出というのは力を入れているところではあるのですけれども、この輸出につきましては、２つ種類があるのかなと考えております。ちょうど今朝の朝刊で、砺波のチューリップが台湾に出ましたという話が出ておりましたけれども、実際このチューリップというのは、オランダのほうでは、もう機械式が導入されていて、もはや農林水産業というよりは工業の一環のような位置づけになっていて安定生産ができると。

やはり、そういった産業にはそういった形での戦い方もしくは数、あとコストの安さで勝負するところに、ブランド、高付加価値化ということで、他のところには絶対できない品種というようなものを開発するような形でのアクセスの仕方というのもあるのかなと考えております。

そういう意味で、今後、海外ということで言いますと、実は東京だとか大阪という街は知っていても、富山という街を知っているところはそれほどないですし、あと、日本にお

いては、氷見ブリや松阪牛やいろいろな有名な産地の地域団体商標を持ったような特産品というのがあるのですけれども、海外についてはまだまだそういった地域の認識がされていないと、逆に言うと、これを一歩先に出て、富山もしくはその地域の名前が海外で売れるような形で、これは数ではなくて、本当にいいものだというような形で売り込むと。そういったものを海外で実際に召し上がられた方が、「富山に来たら、もっと安くもっとおいしいものが新鮮なものが食べられる」というような形で、その高付加価値の農林水産物を輸出することによって、それをインバウンドにつなげていくというような形にすれば、また富山に人も集まる、こちらで消費も増えるというような形でよいサイクルが生まれるのではないかなと考えております。

以上でございます。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

まだまだご意見もあると思いますが、これまでのところで知事からコメントをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【石井知事】　それぞれ貴重なご意見、ありがとうございました。

全般に、やはり今人手不足感が大変出ておりますので、人材の確保が大切だと、しかし、なかなかいい知恵もないなというお話もありましたけれども、私どもとすると、一方で、地方は人口減少ですから、出生率をいかに上げるかという話もあるのですけれども、そちらのほうは幾ら頑張っても、20年後、30年後に生きてくる話になりますので、当面としては、Ｕターン率をもっと向上させるとか、それから移住をもっと積極的にやるといったようなことに相当力を注いでおります。

Ｕターン率は、10年ほど前は大体51％で、それでも東京を除くと地方の県では恐らくトップだったと思うのですけれども、今これが58％まで上がって、７ポイント上がりまして、単年度で言うと、流出が1,200人ぐらいの計算になります。

また、移住のほうは、８年ほど前までは大体どんなに頑張っても毎年200人ぐらいだったのですけれども、５、６年前から300人を超すようになりまして、３年前が411人、それから一昨年が462人となりまして、多分昨年は500人を超している、統計は遅れがちですけど、なるのではないかと思いますが、これも積極的に努力していきたいと思います。

その際に、特に富山県の移住は最近若い人が非常に増えていまして、462人のうち、20歳代、30歳代の人が全体の72％なのですけれども、そういう方々、当然、住宅環境とそれから何といっても仕事、それからお子さんが生まれたときの子育て環境、実際にお子さん

連れでいらっしゃる方も増えていますので、この３つが非常に大事だと思っていまして、したがいまして、例えば、東京の有楽町にある「くらし・しごと支援センター」に富山県のブースを置いていますけれども、これまでもお二人の女性の相談員を置いていたのですが、どうしても住宅とか子育ての話が中心になりがちなので、仕事のプロも置こうということで、今回３人目、男性のそうした方面でノウハウを持っている方を配置するようにしております。

これからＵターンを進めるためにも、セットで考えようということで、今は、昨年の年末、移住転職フェアというのをやって、私も話させていただいたのですけれども、東京で一見給料が高いけれども、実際は富山で働いたほうが実質的な暮らし向きはすごく有利だという話を数字で示して、ご説明しましたら、相当手応えがあったかなと思います。

そういった取り組みもやっていきたいと思いますし、それからお話に出た企業誘致とか、それからやっぱり若い人の定着、県外から呼び込むためにも大学をもっと県内に拡充する必要があるということで、ご承知のとおり、数年前から準備して、今年の４月から県立大学に医薬品工学科、来年は知能ロボット工学科、再来年には４年制の看護学部もつくると、定員を従来の２倍ぐらいにするといったことにも取り組んでいるわけでございます。

それから、ものづくりでいいますと、本当は品質が大切だというお話があって、多くの中小企業者がそのことに案外気がついていないのではないかというお話もございました。この点は私もよく勉強したいと思いますが、ＩｏＴのまさに、ただ同じ品質のものをスピード、コストを下げてつくるというだけじゃなくて、例えば熟練労働者の技術、匠の技みたいなものをＩｏＴの活用で一定の品質向上にうまくつなげられるということになるのかどうか、そういうこともあわせてこれから取り組まなくてはいけないと思いました。

また、農業の後継者育成、確かに集落営農ですと、従来お話しのように、どうしても会社勤めを大体終えたような方が中心になりがちでありましたので、付加価値の高い農業、収益力の高い農業については限界があるという声もありますから、お話しのように、規模拡大を図って、若い意欲のある農業者の方にもっともっと出てもらう。

そういう面では、伊藤委員も朝日委員もご存知だと思いますが、結構最近は100ヘクタールを超すぐらいの農地を、サカタニ農産さんなんか大分以前からそうですが、それ以外でも、そういう専業農家というか、あるいは法人になってそういう経営をされている経営体が随分増えてきているように思うので、これは農地中間管理機構などの制度も活用して、こうしたことの後押しを積極的にやっていきたいと思いますし、また専業でやる、また大

規模にやるとなると、高性能の農業機械も要るとか大型の農業機械も要るとかというようなこともあると思いますから、これはあんまり県なり国が補助金なんかで応援するということばかりですと、かえって農業の自立を妨げるという議論もありますけれども、まずはそうした方向に一歩一歩さらに踏み出していただくときの初期投資なんかについては、やはり積極的に応援していくのかなと思っております。

それから、輸出については、お話しのように、何を一体輸出するのかということで、私どもは、米、米の加工品、それから水産物なんかの加工品とかお酒なんかも含めて幾つか重点品目を挙げておりますけれども、これはなかなかそう簡単ではない、大変競争も激しいわけなのですけれども、しかし、おかげで、よくある業界の方もかなり出てきておりますので、しっかり応援していきたいなと思っております。

それから、ＨＡＣＣＰとか衛生管理の問題なんかのお話もありましたけれども、これはある程度ロットが出ると非常に高度なそうした設備を整備するということもリーズナブルなのですけれども、今のロットですとなかなかそこまでいきませんが、例えば中国なんかに米を輸出する際には、薫蒸施設を通らなきゃいけないのだけど、この薫蒸施設はたしか全農さんが東京周辺に１つ持っているだけとか、そういう現状ですので、言うべくしてそう簡単ではないのですけれども、努力をしてまいりたいと思います。

また、水産業は、お話しのように自然相手の仕事で大変だろうと思いますが、これは「高志の紅ガニ」のブランド化、寒ブリは数年前にブランド化を図りましたが、白エビはとっくにブランド化していると思いますけれども、こうした水産資源の保全を図りながら、しっかり応援したいと思いますし、それからお話には出ませんでしたけれども、今いろいろヒラメとかキジハタとかアカムツとか、いろんなものをご承知のとおり、県の水産試験場でしっかり取り組んで、逐次これをいずれはマーケットにきちんと乗せるようにブランディングをしてまいりたいと思います。

大変雑駁でございますが、そんなことで、大変貴重なご意見、ありがとうございました。これからさらにしっかりと取り組んでまいります。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、続きまして、テーマ３の「環日本海・アジア新時代に向けた陸・海・空の交通基盤の強化」について、意見を賜りたいと思います。

それでは、まず、石澤委員、お願いいたします。

【石澤委員】　小規模企業の立場から少し申し上げますけれども、ご承知のとおり、平成

26年６月、だから２年半前に、悲願でありました小規模企業振興基本法が制定されました。これを受けまして、県では、それまでの中小企業振興県条例の中に「小規模企業の持続的な発展を促進する」ということを表題にも本文の中にも入れていただきまして、今までどちらかというとあまり顧みられなかった小規模企業の振興に力点を置いて、それまでの県条例を改正いただきました。これは全国の手本になったものでありまして、そして今回の見直しといいますか、新しい次期の総合計画の中にも、中小・小規模企業の総合的な支援体制を強化すると、このことを活力政策の上位に実は位置づけていただきました。これは、知事をはじめ県が小規模企業の振興に強い熱意を持っておられるということでありまして、高く評価をして感謝をいたしたいと思います。

そこで、私から、具体的に今回の見直しの中に１点だけ要望を申し上げたいと思っております。それは、現在、中小・小規模企業のいわゆる販路開拓あるいは商品開発を支援するためのファンドは３つございます。１つは地域資源活用ファンド、もう１つは農商工連携ファンド、３つ目は中小・小規模企業チャレンジファンドであります。これは、国、県、そして金融機関から資金を出していただきまして、10年間にわたりまして、助成事業を展開するというものであります。10年間継続をいたしますので、これを活用する立場からいたしますと、いわゆる計画性を持って活用できる、それから一度不採用になっても、ブラッシュアップして再挑戦もできるという意味で非常に頼りになる制度であります。

しかし、10年間で終わりますので、次期の総合計画の中でこれがいわゆる終わる時期を迎えるわけであります。特に１番目の地域資源活用ファンドは、この29年度で期限が終わります。それから、農商工連携ファンドは30年度で実は期限が終わるわけであります。低金利の時代でありますから、いろいろ問題があると思いますが、本当に小規模企業にとっては頼りになる制度でありますので、ぜひ再組成をして継続していただきますようにお願いをいたしたい。

１点、要望しておきます。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、川村委員、お願いします。

【川村委員】　陸・海・空の交通基盤の強化ということですけど、私は、富山はそういう意味では基盤というのはある程度確立されているのではないかなと。もちろん、こういった基盤の確立というよりも、もう少し強化していくとか、こういうことは必要ですけど、これをどううまく活用してやっていくかという、そういうものが大事なのではないかと。

そのためにはどういう取り組みをしていかなきゃいけないかと、こういうことなのかなと、このように思います。

私は、３番目もそうなのですけども、この活力ということですね、これから我々活力ある富山にしていくということなので、活力という中に、今、日本ではそうですけれども、一番人口減少ということから、いわゆる人材の確保ができない、それから働き手が少ないとか、こういうことによって、非常に活力を失うという、そういう環境にあるわけですから、そういう意味では、私は第４次産業革命と言われている、これはこれからの先端技術といいますか、そういうものをどう活用しながらやっていくかということであるのですね。

そうすると、この中で一番先に第４次産業革命の対応と新たな成長産業、この対応ということによって、対応の仕方によって、１番、２番の問題についてもいろいろ解決できるというものがあるのではないかなと。

ただ、問題は、その対応ということについて、大きな企業はある程度主体的にやっていったりできるのですけど、圧倒的に中小企業が占めている。先ほど大谷委員も言われたように、ここのところをどう導入するか、または１社、１社ではなかなかできないとすると、産業、業種ごとにやるとか、ないしは地域ごとにという形で、束になって対応していく、こういうようなことを指導していくという意味での、今の先端技術でＡＩだとかロボットとかＩｏＴとかも含めてですけれども、そういうものを導入する支援センターみたいなものをつくって、それは１つの県でやるのか、それとも業種別でいくのかとか、何かそういうようなことで中小企業に対して支援していく、また導入のお手伝いをしていくという、こういう仕組みをつくっていけばいいのかなと。そういうことによって、結局その活力という中にいくと、当然今人口減少ということであると、人口減少を上回る生産性を上げていかなければならないということなのですね。

だから、これをやらないと、何しろ人口減少というのは止めることできないのですね。だから、そうなってくると、減少を上回る生産性ということ、この中には、当然働き方改革とか、そういうものから来る若い人たちの就業とかというものにもつながっていくだろうし、僕はそういう意味では、この第４次産業革命の対応ということについて、これは官民挙げて、もちろん産学官挙げて、そしてそういう意味での投資とかというと金ということになりますから、何かそういうことをみんなでやっていくという仕組みをやっぱりつくることが大事なのかなということであります。

以上です。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、薬業連合会の中井委員、お願いいたします。

【中井委員】　陸・海・空の交通基盤ということでございますが、富山県の例えば地方鉄道を含めて、その辺にちょっと疑問点があるわけですね。というのは、私どもの会社は富山市の三郷にありますが、そこへ私どものお客さんが来られまして、それで立山連峰のところへ電車が走るところを写真撮りたいということで、仕事の話もそうなのですけど、そしたら「中井さん、中井さん、こんな電車まだ走ってるんですか。」ということを言われるのですね。その辺、何といいますか、深く考えると、何かちょっと怖くなりましてですね。陸・海・空もそうなのですけど、富山県内に走っているいろんな交通機関の見直しをしておかないと、ちょっと難しい問題が出てくるのではないかというふうに思いました。

医薬品業界につきましては、またの機会にお話ししたいと思いますが、医薬品業界はＪＥＴＲＯさんですとか、いろんなご協力を得て東南アジア等々へ行っていますが、ベトナムもそうなのですけど、インドネシアもそうなのですけど、ベトナムに至っては、やっぱりもう中国だとかインドから安い薬が入っているのですね。本当に欲しい薬はやっぱり彼らのつくれないものを欲しがっているのですよ。ですから、東南アジア、もちろん世界もそうなのですが、やっぱり付加価値の高いというよりも、日本でやらなきゃだめだよというものは、今は物を売るのではなく買いに来られる時代ですから、その辺の感覚といいますか、開発力をより高めていけば、まだまだ将来性があるのではないかと思っております。

以上でございます。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、政所委員、お願いいたします。

【政所委員】　３番と４番と少し関係してもよろしいですか。

【髙木部会長】　はい。

【政所委員】　私のほうから少し具体的にご提案をさせていただきたいと思うのですけれども、今、観光という面においても、かなり富山県というのは材料がそろってきて、今までのプロモーションというのは非常にできてきていると思います。それで、陸・海・空全て整った段階で、これから１つの戦略として、ちょっと総合的に捉えてきて、今１つのご提案をしたいと思います。

人手不足、人口減少、これは全国どこもいずれも同じで、また、高い技術の人を導入したいといっても、なかなかどこに、富山県に移住してくれる人がいるかわからないと、そ

ういうようなことで、いろいろ策を全国の自治体がしているわけですけれども、最近、いろんな地域を見ていて、移住に関して関心を持っている方が非常に多いのですね。

それで、北陸新幹線で東京から２時間ということで、これはこれまでとガラッと意識を変えると、通勤圏になったというようなことも言えるのではないかと思うのです。東京なんかは通勤の平均時間が１時間40分から１時間50分と言われていますので、もうまさに通勤できるところに富山があり、またインバウンドでも、船で来る方というのはかなり増えてきているということで、ちょっと観光にシフトするのですけれども、産業観光という視点を少し強化して、その交通を生かしていただき、新しい観光戦略にということで、１つご提案したいことがございます。

これは、今までの意識とちょっと変えて、ロングステイという形になるのですけれども、産業観光を、ただ見せるということでなく、実際にそこで体験し、例えば、お魚ということに着目したときの産業観光を一例にしますと、今、東京の豊洲の問題が非常にクローズアップされてきているのですけれども、流通革命が一方で起きています。少量多品種の材料を飲食店の人たちが手に入りにくいという状況に目をつけて、ここで特定の地域も少量多品種のもの、魚を中心に、そこに必要な加工品や野菜を、小さなレストランが必要な量だけ流通させるという倉庫業が、豊洲の移転で今ちょっとこれから２年間ぐらい空白が生まれるというところの中にできてきて、急速に流通革命が起きてきています。

そのような状況と、もう１つは、魚ということで、さきほどのロングステイなのですけれども、こういったアセンブリーをするような人に情報発信する上でも、長期滞在してもらって富山のいろんな材料、工業、さまざまなものを体験してもらうという仕掛けがもっともっとできるのかなと思っています。

例えば、それをインバウンドでちょっと考えてみますと、富山に留学するという発想で、魚のさばき方からすしの職人の方たちを育成するということを仮に考えたときに、例えば長期滞在すれば、そこで普通にホテルとか旅館だけでなく豊かな空間で下宿して、そこで長期滞在して何か資格を学んでいくということになると、ここでは建築とか建具とかアートがプレゼンできますし、富山全体のものをプレゼンテーションできるのではないかと思うのです。食の中でも特に魚種、魚のさばき方ということで、１週間あるいは１カ月、３カ月というような滞在を通じて、富山で勉強して世界で活躍する人を広げていくと。

これは、なぜこういうことをお勧めするかというと、今、世界中人手不足な状況で、例えばライセンスを取ってすし職人になったとしても、お店を持つというのは人を使ってや

るのは大変なのですね。ここで小規模の飲食店というのは、今みんなロボットを使うのですよ。御飯ロボット、すしロボット、焼き鳥ロボット、それから回転寿司みたいにベアリングを使った小規模な回転ずしの機械とかですね、これは富山のいろんな技術をミックスすると、やっぱりここで魚ということを１つ絞り込んで言えば、すし学校なのですけど、大学、学校を広げていくというお話もあるのですけども、その中で１つ観光という面で陸・海・空いろいろ便利になったところを駆使して、「富山で留学しませんか」というようなキャンペーン、その中で、「富山で資格を取りませんか」「そのためにロングステイしませんか」というようなことで、国内外から、ここ富山で勉強して世界中に広がっていくという中に、長期間滞在する中で富山のものづくりから何から全部プレゼンテーションしてしまうというようなことで、ライセンスを取ったら同時にロボットも購入していただいて、それで独立するというようなことで、ぜひここで、人手不足ということで言うと、ここで勉強して、何も全部が全部富山に定住しなくても、世界中で働いていただいて活躍する人が常に県外にいる人だけど県民化させるというような人口対策をちょっと考えてみたらどうかなと思いました。

具体的な産業学校の商品を１つだけ最後にご紹介したいのですが、高知県というのは、いずれ県民人口が30万人になると予想されていまして、今、必死でＩターンに力を入れています。その中で１人パティシエで、世界中で修業した人が高知県の土佐山というちょっと山の中なのですけど、そこでパティシエ修業学校を始めました。これは１年間で普通専門学校で勉強するお菓子の技術を３カ月・60万円で完璧に職人にして出すという、もう全くの田舎で焼くのですね。ですから、そういう発想でいくと、50万円、60万円、滞在期間にお金を払う、技術を勉強するなんていうのが、今各地でいくつか出てきていますので、ぜひともその富山留学というようなコンセプトで、その交通の利便性が高まったことを利用しつつ人材も育成し、ものづくりもアピールしていくというような循環型の提案をちょっとさせていただきたいと思いました。

ちょっと長くなってすみませんでした。

【髙木部会長】　それでは、富山新聞の宮本委員、お願いします。

【宮本委員】　実業の世界の皆さん方が多い中、私みたいな虚業がこんなところにいていいのかなと思っているのですが、18年前に一応私と女房と娘２人、家族４人が移住をして、昨年、金沢の家を売り払って富山で新築したということで、富山がよくなってほしいなという思いが極めて強く働いております。

そういう中で、最近ちょっと気になった、読んだことがあるのですが、1997年をピークに可処分所得が日本は下がり続けておると。なぜかというときに、従来の製造業、建設業から医療、介護、医師というサービス業へ、就業人口が移動して、給料の高い製造業、建設業の人が少なくなって、安い就業人口の方が増えているというような話がございました。これじゃ活力なんてもう生まれるわけがないなという思いがある反面、富山の場合、やはり製造業の集積度が高い。最近、新幹線ができて、私は今現在、古鍛冶町、隣の中井委員によれば、四番町に住んでいまして、金沢へ行くのに西町の電停に乗って、富山駅へ行って新幹線に乗れば、30分そこそこで金沢の駅に着く。そういう意味では、極めて暮らしやすい地になったなと思っております。

コンパクトシティという発想もございますけれども、富山県の地形を見れば、１時間以内でどこへでも行けるという、こういう地の利というのですか、これからいろいろな行政全てやれるわけではないと思いますけども、その豊かな地にしていくという意味では、日本の中でかなり優位にあるのではないかなと思います。

それと、この間、大学関係者の話を聞きましたら、先ほどのＡＩとかＩｏＴが進めば、47％仕事がロボットに置き換えられる、自動化すると。もう10年か20年後には週の労働時間が15時間減ると。そしたら、あと何やればいいのかなというような話をしておりました。

その場合、やっぱり、基礎的な学力、読み書きそろばんというようなところに力を入れて人材を育てていくことが大事になってくるのでないかなと。そういう意味では、今、知事がおっしゃった県立大学の教育機関を充実していくという選択も、これは間違っていないと思っております。

以上です。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、次に「観光振興と魅力あるまちづくり」について、ご意見を賜りたいと思います。

それでは、まず最初に高田委員、お願いします。

【高田委員】　ありがとうございます。ただ、私、今回は県の中小企業団体中央会の会長という立場で来ておりますので、私のほうですと、傘下に400の組合があって、この出ている課題について何か話をしなきゃいけない立場であるのだろうと思いますが、実際問題、私自身はこちらの観光振興ということにはあんまり日ごろから携わっておりません。

そういうことで、ただ、富山県は非常にそういう面で、他の人たちからぜひ行ってみた

いと思わせる要素はそれこそいっぱいあるのですね。私、前にカンボジアの親善協会のこともやっていまして、カンボジアへ行きまして、フン・セン首相のお兄さんが州知事されているところへ挨拶に行ったのですが、「ぜひ富山に来てください。」と言ったら、最初のうちは「ふん」というような顔をしていたのですけど、持っていったカレンダーで雪の立山、それから大谷、ここらを見せますと、いきなりもう乗り出してきて、「そこにはどうやったら行けて、そこにはどういうようなことがまだ楽しめるんだ。」というようなことで、体を乗り出してこられました。

ということで、非常にそういう面でも皆さんが、そういう人たちというのは世界中いろんなところに行っている方なのですが、それでも「ぜひ富山に行ってみたい」というふうに瞬間的に思わせる要素もありますし、九州の人たちと話していて、いろんなことをやっていましたら、「富山の人はずるい。」と言うのですね。「何で？」と言ったら、「いや、あなたたちはそんないいことを自分たちだけで中で楽しんでいる。ぜひ、そういうことをやれば、自分たちのほうにもいろいろと教えてくれれば、富山に行きたいんだ。」というようなお話もありました。そういうことで、魅力は十分にあるので、どうやって発信していくかということになるのではないかなと思います。

それと、この部会の進め方について１つ提案なのですが、このような形で行きますと、全ての項目を予習してこないと、準備してこないとなかなか前向きといいますか建設的な意見がこの場でお話しできないと思いますので、できれば、例えば、あらかじめこことここはしっかり勉強してこいとか、また我々自身が本当はあらかじめ勉強して、今この観光のテーマを当てられても、強引に自分のところのテーマに持っていくようにしなきゃいけないのかもしれませんが、何かそういうその辺のところができれば、我々の事務局なり組織がありますし、青年部のメンバーもいます。「あらかじめこういったことをこの場でテーマとして与えられているから話す、それをこれから準備しろ」というような、そういう時間があれば、また次回にはより建設的なお話ができるのではないかなと思います。

よろしいでしょうか。

【髙木部会長】　事務局のほうはぜひ、どういうテーマで当てるかもしれないということで、事前通知をお願いしたいと思います。

それでは、能作委員、お願いいたします。

【能作委員】　産業観光なのですが、４月後半から自社で産業観光に特化した社屋の建設を行っていますので、昨年9月に産業観光部という部を立ち上げまして、社内で今５人の

社員が産業観光について調べている段階なのですが、何で産業観光をやろうと思ったかということですが、見学者が多いこともありますし、現在直営店が県外に11店舗ありますので、情報の発信ができるということになります。

やっぱり大事なことというのは、富山県からのメディアなどのいろいろな媒体を使った情報発信も大事なのですが、やっぱり県外から富山のよさを伝えるということ、これも非常に重要だと思っていまして、先ほどお話に出ました「はま作」さんですが、日本橋とやま館に行った時に大将に「どう？」って聞くのですが、結構忙しいのですね、いつもいっぱいで。確かに出しているものもおいしいし、彼からも富山のことはしっかり伝えています。それによって、実際富山県に来てもらえる人が増えると思っていまして、例えば新幹線、本当は富山市まで２時間で来れるのですが、これも結構知らない人が多いです。逆に日本橋とやま館でこれだけの利便性があるのだよということをちょっと強調したＰＲ法をとってもらうと、おそらくたくさんの方が興味を持っていただけるのではないかなとも思います。

うちの会社で行う産業観光については、観光庁が言っています日本版ＤＭＯを実践しようと思っています。１社で頑張ってもだめで、みんな連携してやりなさいということなのですが、そのような形をとろうと思っていまして、二次交通も含めて考えるべきだと思っています。

もう１つ、また産業観光とは違う話になるのですが、１番の「グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成」ということなのですけれども、これは本当最近感じるのですが、富山県は農林水産業も含め、「ものづくり」がたくさんあるにもかかわらず、違う産業の方はまるっきり知らないというのが非常に問題だと思います。やっぱり産業の横のつながりをつないでもらうような施策、それによって新しい産業が生まれる可能性もあるのではないかなと思いますので、まずその富山の企業を知ることを各企業に周知していただくと非常によいのかなと思いました。

あと、これから富山県が元気になるためには、やっぱり子供たちが一番大事だと思うのですね。うちの会社も子供たちの見学が多いものですから、「富山県は、これだけいいとこだよ。」、あるいは「高岡はすばらしいところだよ。」と伝えます。そうすると、彼らが大きくなって県外に行って、「富山は良いところだよ。」と、どこの出身と聞かれ、「富山県のどこどこ。」と堂々と言ってもらえること、こういう子供たちが増えることが、地方創生の早道だと思っておりまして、高岡の場合「ものづくりデザイン科」という授業をこれまで10

年やっています。これは伝統産業を理解してもらおうと行っているのですが、もっとこういう機会が県として増えてもいいのかなと。地元を知ってもらうということは一番重要だと思っていますので、こういう機会をつくっていただくことというのは今後お願いしたいなと思います。

以上です。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、松田委員、お願いします。

もうこれから、ちょっと申しわけございません、１人３分でお願いいたします。

【松田委員】　観光のほうですけど、先ほどからいろいろな皆さんのお話等お聞きしていまして、なるほどなと思うのですけど、まず大型化するクルーズ客船の受け入れ環境の整備ということを考えますと、富山に入ってくると、バスが100台では足りない、200台とか、そういった感じになると、富山県内ではとてもじゃない、おぼつかない、やはり隣県のバスを借りなきゃいけない。

例えば、九州ですと、福岡に大型客船がどんどん入ってきているのですけど、これは鹿児島から全部含めて観光バスがそこら辺を周遊するような形をとってやっているということなので、例えば長野ですと、今、白馬なんかに行かれますと、ここはスイスかなと思うぐらい外国人の方が多くて、日本人の方が逆に少ないというような状況、飛騨のほうもそういうような感じになっています。

そういったところと、やはり富山は長野、先ほどここにも書いてありますけど、岐阜、等も含めた連携、金沢も含めて、扇の要ですので、航空関係、船、そういったものもそろっていますので、やっぱり隣県、北信越との連携した観光というのは、より重要になってくるだろうなと思います。これをもっとお互いの地域と交流しながら、もっと共同の商品をつくっていけるような形にして、海外に発信していくということが大事ではないかなと思います。

【髙木部会長】　それでは、梅田委員、お願いいたします。

【梅田委員】　私は、商工会議所の女性、県連の女性という立場ですと、今日の話の中に女性の活用というのは１つも出てこなかったのですけど、やはり人材不足というか人手不足の中で、女性の活用のためにも、女性をきちんと教育するということが一番必要かなというのが１つと、あとは、私は自分の商売から考えると、やはり中小企業ですので、ＩｏＴとかいろいろな意味で言っておられても、教育がなされてないせいか、ぴんと来ていな

い。今、町野委員がおっしゃったようなことの中で少しずつレベルアップできるかなという、そういう意味での人の教育に対して、何らかの形で補助をお願いしたいなというのが１つと、私、今、まちなかに住んでおりますので、魅力あるまちづくりというのは、河上委員がすごく頭を悩ましておられます。私も、三番町に住んでいてよくわかるのですが、とかく富山駅周辺でチェーン店がすごく増えたかわりに、地元の昔からのお店がどんどん後継者不足も含めて廃業をして、富山の良さがだんだんなくなってきているということにちょっと危惧しておりまして、それをどのような形で昔の富山のまちのにぎわいというのをもう一度再検討したいなという思いで、そういうのをしていただくことが大切じゃないかなと。外の人を引っ張るとか、それは、そういう地元の人が満足して初めてできるのであって、地元の者が不満を持っていては、人を寄せるのに絶対よくないと思うので、それだけは、ちょっと皆さんと考えていきたいなと思います。

【髙木部会長】　ありがとうございました。先般、左義長を、ちょっと人出の少ない中央通りでやりましたところ、１割増の11,000人も来たのですね。西町の鈴木亭さんや竹林堂さんのお菓子が300～400余計に売れたということでお礼がありました。波及効果があるので、これからはさまざまな施策についてまた一緒に考えてまいりたいと思います。

それでは、渡邉委員、すみません、３分でお願いします。

【渡邉委員】　それでは３分で、ヘッドラインだけお話しします。

渡邉です。観光振興を専門にしています。

まず、観光のことですが、基本的には、これまで新幹線開通を目指していろいろなポリシーをとってこられました県の観光当局なのですけども、非常に功を奏して、いい結果をお出しになったのではないかなと思います。もちろん、その後少しずつ落ちてきていますけど、これは観光の歴史を見てもいつでもそうですので、そんな大した問題ではないなと思います。

今日は、効果的にちょっと、インバウンドを中心に少しお話を、ヘッドラインだけお話しします。

まず、３の部分なのですけども、「ＬＣＣの活用」というところが出てきます。このＬＣＣはもちろん国内のＬＣＣと海外のＬＣＣとあるのですが、新幹線の開業でわかりましたように、観光における一次交通のインパクトというのはいかに大きいかということを私たちは知ったわけですね。ですので、このＬＣＣの誘致、ＬＣＣは特にやっぱり海外ＬＣＣですが、おそらく海外ＬＣＣは、要はもうからないとやりませんから、ニワトリ卵現象だ

と思うのですが、世界的に見て北東アジアのＬＣＣ利用率っていうのは確かまだ10％、アメリカ、北米それからヨーロッパに比べると低いわけですから、まあチャンスはあるかなと思います。

それからもう１つ、クルーズですね。クルーズに関するメンションもあるのですが、昨年ですか、富山県伏木港、必ずしもクルーズに関して万全だったわけではないとは思うのですけども、これも世界的な観光から見て、クルーズはこの先まだまだ伸びると、日本はちょっと落ちていますけども、と言われていますので、クルーズデスティネーションとして、富山は絶対いいものを持っていますので、極端な話ですが、少しインセンティブをつぎ込んでも寄港してもらうと、そうすれば、もちろんお金で解決するというのは一時的なものになるという危険はあるのですが、富山というヒンターランドを持っている寄港地としては、そういう方策もありかなと思います。

それから、この中で「海のあるスイス」「「立山・黒部」の世界ブランド化」と、正しいやり方かなと思います。この中でやはり、おそらくおやりになっていると思うのですが、スイスという観光地は、自分たちは物価がすごく高いので安いのは提供できない、だから質でいこうとやっている世界的なデスティネーションです。そこから学べるところは、資料にもありますが、二次交通の充実。スイスに行きますと、いかに電車のコネクションがいいか、びっくりしますね。それから、外国人に対するレールウェイパス、ちょっと名前違ったかもしれませんが、そういった外国人優遇策がスイスはかなりとられています。こんなところもあわせて学んでいくべきかなと思います。

それから、インバウンドに関して、富山県の１つの、先ほどの山本委員もおっしゃいましたけれども、前から言っているのですけど、富山の魚、ブランド、これもっとインバウンドへ持っていっていいと思います。やっぱり、前から言っているのですけども、「ベストすし イン ジャパン」で、絶対売れる県だと思いますね。特に開業の後は、国全体がＩＲ、オリンピックの後ＩＲということを、いろいろ賛否両論ありますが、やっていますように、目玉がインバウンド、そのうちの１つが私は食事ではないかと思います。魚というフィッシュとかシーフードだけじゃなくて、ブリがいいのか、白エビがいいのか、カニがいいのかわかりませんけども、そろそろ特定の魚で、英語あるいは中国語で売り込んでもいい時期なんじゃないかなと思います。

そして最後にもう１つ、先ほど産業観光の話が出ていました。資料にも出ていますけども、その中で並び称されて「ロケ地めぐりなど」という言葉が出ています。一次情報とし

ての、いわゆる映画の強さというのは最近、今年アニメがいろいろはやっていますけれども、それが観光に与える影響っていうのは非常に大きいというのは、私たちも目の当たりにしています。ですので、フィルムコミッションの活動でしょうか、これもこの先さらに強めて、なかなかすぐ答えが出る、成果が出るものではないかと思いますが、あわせてやっていただければと思います。

危険な電車が走っているという話がありましたけど、観光的に言いますと、あの危険な電車がすごい魅力的なので、何とか安全にしていただいて、いわゆる鉄道ファンが来られるようなデスティネーションにしたいなと思います。

ちょっと早口でしたが、３分で収まりましたね。

【髙木部会長】　ご協力大変ありがとうございました。

それでは、お待たせしました、横井委員、お願いいたします。

【横井委員】　横井です。幼い子供を２人持つ主婦です。一県民としての目線でお話しさせていただきます。大変緊張しており、お聞き苦しい点があるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

「観光振興と魅力あるまちづくり」についてですが、私は、県としてキラリと光る特徴を１つ持つべきだと考えています。誰にも負けない単純明快な抜きん出た何か１つで、「富山県と言えばこれっ」と誰でもわかる特徴で、この多くの政策の中から概ね10年の中で１つ見つけ、決めるのはどうでしょうか。

他県を例に挙げると、福井県は恐竜、熊本県は「くまモン」というふうにわかりやすい特徴です。その１つを決めて、富山県全体でそれに向かうのです。観光でも特産品でもどのようなものでもよくて、例えば、おわら、立山、ますずし、ホタルイカ、白エビ、紅ズワイガニ、いろいろあります。ただ、県としてキラリと光る特徴にするならば、絶対に揺るぎない、芯のあるしっかりしたものでなくてはなりません。

先ほどの福井の例ですが、もちろん他県でも恐竜の化石はたくさん発掘されていますが、やはり恐竜と言えば福井、福井には絶対勝てません。何が違うのでしょうか。キーポイントは、県として光る特徴プラス子育て支援、人材育成だと考えられます。なぜ子育て支援かというと、概ね10年後を考えたとき、今の小学生が10代後半から20代になり、若い人材として県に不可欠の存在になっています。その若い人材を県外に流出していかないために、よい人材育成のために幼いころから支援することで、つまり県の魅力に触れることで子供たちが県に定着すると考えられます。

また、福井のことになりますけれども、福井の恐竜博物館では、平日、地元の保育園や小学校の見学を頻繁に行い、子供たちに魅力を伝え、第３日曜は全員入館料を無料にして、子育て世代を多く取り込んでおります。そうした地道な努力があって、現在の福井のキラリとした特徴である恐竜ができたと考えられます。

では、富山ではどうでしょうか。県の広報を見ますと、「魚の県と言えば富山県」とありました。春はホタルイカ、夏は白エビ、秋は紅ズワイガニ、冬はブリ、ただ、県内の小学生でこれを食べる、これに触れる機会はそう多くはなく、富山に住んでいるのに、その四季折々の魅力を知らない子供が多いように感じています。それを子育て支援の１つとして、県内全体の学校給食で出してみるという試みもよいように思います。

10年後、20年後の富山を支えるのは、今の子供たちです。県の魅力に触れる機会を多くすることで、県に愛着を持ち、１人でも若い人材を県内にとどめることができ、未来が明るく希望があるように感じます。

富山県には多くのすばらしい政策があり、真面目で勤勉な富山県民ですので、10年後、多くの成果が出るでしょう。ただ、全部平均点以上では意味がなく、私としては、１位を取る何かが欲しいように思います。

芯のある人は輝いて真っすぐ立っているように見えるのと同じように、富山県もキラリと光る特徴を１つ持つことができれば、この先ずっと元気で輝いて見えると私は考えています。

以上です。すみませんでした。

【髙木部会長】　ありがとうございました。

それでは、最後に知事からコメントをお願いしたいと思います。

【石井知事】　時間も押していますので、手短に。

石澤委員が言われた地域資源の活用ファンドと農商工連携ファンド、期限が来ているのは承知しておりまして、ただ、非常に低金利なものですから、今のファンド形式がいいのかどうか、これはよく庵委員なんか大変手厳しいご意見を持っていらっしゃるように思うのですが、またよく考えてみたいと思います。

それから、川村委員が言われた、やっぱりＩｏＴなんかは、中小企業については何かもっとグループ化といいますか、支援する仕組みが必要だというのはごもっともかと思っております。

中井委員が言われた、こんな電車がまだ走っているかという話がありましたけれども、

もちろん安全面は大丈夫だから走ってもらっているのですが、誤解を招かないように、それからまた意外と古いのが哀愁を帯びるというか、懐かしくて大好きだという人もいるものですから、またご相談したいと思います。

それから、お話しのように、医薬品については、安いものは中国とかインドにどうしても負けますので、本当に品質のいいもの、向こうが欲しいもので勝負するというのはおっしゃるとおりだと思います。

それから、駅周辺にどうしても流通が移りつつあるというご指摘もございました。これは河上委員がおられますが、左義長とか、髙木会長もいろいろとご尽力いただいているのですけれども、もう少し若い世代、後継者不足というとどうしても跡継ぎがいない場合に、若い意欲のある人がうまくそのお店を引き継げるとか別の形で展開できるとか、何かそういう知恵が必要かなと。それには、今までやっていた人も頭を切りかえる必要があるのかなというような感じもいたしております。

それから、渡邉委員がおっしゃるように、ＬＣＣもそうですし、クルーズはまだまだ拡大の可能性は大きいと思っていまして、正直、いろいろ手は打っているつもりなのですけれども、ちょっと思いが届かないところもありまして、これはぜひ成果を上げていきたいと思っております。

それから、ロケ地めぐり、これはおかげさまで、ここ七、八年、随分ロケーションオフィスの職員も頑張ってくれまして、ご承知のように、最近では「映画を撮るなら富山県」という感じになりつつあると思いますが、また努力してまいります。

また、横井委員が言われた、とにかく何かこれが１番というものをたくさんつくるべきじゃないかというお話、１番のものをすべきだと、それはそうかなと思いますので、富山県は、私が言うとちょっと身びいきになりますが、結構胸を張るものがなまじっか多いものですから、１つに絞りにくい点もあるのですけど、よく考えてみたいと思います。

まだほかにもいろいろご意見があったと思いますが、政所委員がおっしゃったロングステイの話は、見せるだけじゃなくて体験させる、それからすし学校というご提案もありました。こうしたことでしっかり勉強してまいります。

それから、そうですね、あと、高田委員、観光資源まだいっぱいあるのですけれども、なるべく事前にテーマについてお知らせするというのは、またやらせていただきます。

それから、能作委員は、本当に観光振興、力を入れていただいて、私はむしろ感謝を申し上げます。ぜひ県外それから海外にも代理店を持っていらっしゃるので、各地から能作

さんの製品を通じて富山のイメージアップにもつなげていただければありがたいと思います。

それから、松田委員が言われた、富山はこの地域の扇の要というのは、そのとおりでありますので、そういう意味でしっかり勉強していきたいと思います。

大体そういうことかと思いますが、今日のそれぞれいただいた貴重なご意見、しっかり生かさしていただきます。どうもありがとうございました。

【髙木部会長】　石井知事、ありがとうございました。

４　閉　　会

【髙木部会長】　それでは、本日は、このあたりで会議を終了させていただきたいと思います。

長時間にわたり、ご協力をありがとうございました。

それでは、事務局のほうからお願いします。

【司会】　本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

時間の関係もありまして、意見を十分に言い尽くせなかった委員の方もおありかと思います。お手元に意見等を記入していただく用紙を配付してございます。本日の議論を踏まえた意見などございましたら、また後日事務局のほうへ郵便、ＦＡＸ、Ｅメール等でお寄せいただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

次回の活力部会は４月下旬を予定しております。日程が決まり次第、別途ご案内をさせていただきます。

本日は、まことにありがとうございました。